

# 第一級の国際人・土木技術者

日本水フォーラム代表理事  
竹村公太郎

Kozae Takemura



## 利根川水防演習

平成二十八年五月二十一日、利根川の取手市において水防演習が行われた。

私が所属する日本水フォーラムは、各国の在京大使館員の方々を案内する役目を引き受けている。

どの国の在日大使館も東京の中心部にあり、そこに勤務する外交官たちも東京に住んでいる。彼らは大使館と外務省との間を行き来する生活に追われていて、日本の地方の文化や歴史や伝統に触れることは意外と少ない。

首都圏では毎年、利根川水系で大規模な水防演習が行われている。一〇年前から、日本水フ

ォーラムは、その外交官たちをこの利根川水防演習に招待している。水防演習は、都心から離れた利根川上流部や下流部の河川敷で行われる。外交官にとって、この見学は首都圏周辺の地方の風景と自然に触れる機会となる。

さらに、この水防演習は、その地域の民間の水防団が中心となっている。各国の外交官たちは、この水防演習を見ることで、世界最先端の近代国家の日本が、二十一世紀の今でも、地域住民が行政と一緒に洪水防衛に立ち向かっている日本の姿を知ることとなる。

今年でちょうど一〇回目に当たり、延べ二六カ国の大使と二〇〇名を超える外交官たちがこの水防演習を見学している。この水防演習の見

し、実際に土囊作りやロープの結び方の演習にも参加していた。

午前十一時過ぎに水防演習が終了し、日本水フォーラムの一行は外交官を連れて、利根川の稲戸井調整池に向った。国土交通省関東地方整備局の利根川上流河川事務所の副所長がバスに同乗し、現場案内をしてくれることとなった。

調整池とは、河川の洪水水位が上昇していったとき、河川に隣接する大きな空間に洪水を導入し、河川の水位を低く抑える役目である。

稲戸井調整池は、利根川と鬼怒川の合流点の下流部に位置していて、利根川の水位を下げ利根川の堤防を守るためではなく、利根川の水位を下げることによって、鬼怒川の洪水を速やかに利根川へ流下させる効果もある。鬼怒川にとっても大切な役目を担っている調整池である。

しかし、治水上重要なこの稲戸井調整池の役目を説明するには容易ではない。現場の技術副所長が二〇名もの外交官の前で説明できるか、内心は不安であった。

その現場の副所長がバスに持ち込んだ説明資料は、二枚のパネルだけであった。そのパネルには説明文や数字はなく、調整池に洪水が一杯に入っている空中写真であった。そのパネルの写真は、調整池の役目を一目瞭然に示していた。

## 自然豊かな調整池の越流堤

調整池の現地に着くと、洪水を調節池に導入する越流堤に登った。目の前には豊かな緑が広がり、調整池には鳥の鳴き声が溢れていた。豊かな自然に包まれた外交官たちは、東京では知りえない日本の別の側面を味わっていた。

外交官たちは調整池の越流堤の上で副所長の説明を受け、質疑応答へと進んでいった。通訳を通しての副所長の説明は自信に満ちており、専門用語を使用しない簡潔なものであった。それに外交官からは多くの質問が出された。それに対して副所長は

- 四〇〇年前、首都の江戸を守るため徳川家康が利根川の流れを東へ変えたこと
- 稲戸井調整池事業だけでも五〇年近くかかったこと
- 調整池の容量を増やすため、これから調整池内の地盤を掘削すること
- その掘削は、池の植生や鳥や昆虫の生態系を守りながら行うこと
- などを分かりやすく説明していた。

## 第一級の国際人

帰りのバスの中でも副所長に質問が相次いだ。その中で「あなた方は、洪水に勝ったのか？」

学は、大都会の東京で暮らす各国大使館員の間では密かな評判となっている。

## 水防演習と洪水調整池

早朝七時集合という厳しいスケジュールであったが、シリア全権大使をはじめ一三カ国二〇名という多くの大使館の方々の参加があった。

昨年二〇一五年の九月、利根川水系の鬼怒川で堤防破堤が発生し、多くの流域の人々の人命と財産が失われた。今年の水防演習はその鬼怒川に近いため、水防演習を実行する水防団、国、自治体、自衛隊、民間企業はもちろん、多くの見学者たちも緊張感に溢れていた。

参加した大使館員たちも、真剣に演習を見学

という質問が投げかけられた。

聞いていた私も、そのような質問は想像もしていなかった。副所長は何と答えるだろうかハラハラして彼を見ていると、副所長は躊躇なく自分の考えを述べていった。

「今のところ、私たちは勝っている。しかし、洪水は自分たちの予想を超えてしまう。最終的には、我々は自然には勝てない。だから、自然とは共生するしかない。私たちは自然から恩恵も受けているのだから」

通訳を通じた彼の回答を聞くと、自然と外交官たちの拍手が湧き起った。洪水と毅然として戦っている現場責任者の言葉は、自然に対して驕慢ではなく、限りなく謙虚であった。

現場の技術者たちは、洪水と戦い、河川の環境を守っている。彼らは英語を上手に話すことはできない。しかし、世界各国の外交官たちを魅了してしまう語るべき内容を持っていた。

国際人とは、英語を良く話すだけの人ではない。国際人とは、世界の人に向かって語りかける内容を持っている人なのだ。

この日、水防演習に参加した外交官たちは、現場の土木技術者の自信を持った姿と、自然に対して謙虚な心構えに感動していた。

土木現場の第一級の技術者は、第一級の国際人にもなれるのだ。